

漫画家

木森薫

と

MANGA ARTISTS
MORI KAORU AND IRIE AKI
EXHIBITION IN SETAGAYA
BUNGAKUKAN
2024.11.2 (SAT) (MON)
2025.2.24

入江亜季展

先が描く緻密なる世界
The World of Intricate Paintings Created with Pen

2024.11.2(土) - 2025.2.24(月祝)
世田谷文学館

【開館時間】10:00-18:00(展覧会入場無料)
【グッズショップ】は17:30まで【休館日】毎週月曜日
【2024年11月祝日の場合は開館し、翌日休館】
【主催】公益財団法人せたがや文化財団 世田谷文学館
【協賛】(有)別格カドカワ KADOKAWA【協賛】株式会社
【協賛】東邦ホールディングス株式会社【協賛】
世田谷区 世田谷区教育委員会【協賛】
【協賛】BALCOLONY【会場構成】フジテレビ

2024年度後期
2023年度
展覧会のご紹介
世田谷文学館事業報告

「シーズン展示」
小説と映画の世紀展
追悼・菅野昭正名誉館長

2024年9月21日(土)～10月20日(日)

フランス文学者、文芸評論家、そして当館名誉館長である菅野昭正の最後の著作『小説と映画の世紀』(2021年)をご紹介します。同書で小説と映画というふたつの芸術ジャンルを比較するにあたり、菅野は12編の原作小説と映画作品を選びました。それらはどれも20世紀に創作され、また菅野自身の生きた激動の20世紀を映し出す作品でもあります。トーマス・マン『ヴェネツィアに死す』、フランツ・カフカ『審判』にはじまり、ミラン・クンデラ『存在の耐えられない軽さ』、ウンベルト・エーコ『薔薇の名前』で幕を閉じる同書は、時代に翻弄される人物や状況が、作品とともにゆるやかな時系列に並べられ、菅野の目を通した20世紀の思想史を私たちに提示しています。

資料とともに紹介しながら、小説と映画の織りなす世紀に思いを馳せ、過去だけでなく未来にも向けられた菅野の眼差しを追います。展示と上映会、トークイベントなどを通して、小説と映画の関係について考える展示会です。

「企画展示」

漫画家・森薫と入江亜季展

ペン先が描く緻密なる世界——
2024年11月2日(土)～
2025年2月24日(月・祝)

同時期にデビューし同じ雑誌で連載を重ね、ともに成長してきた漫画家・森薫と入江亜季。アナログの手描きにこだわりつづける二人が生み出す絵は、極めて繊細な線で描かれながら、ペン先の力強い息づかいを見せる者に伝えます。ヴィクトリア時代の身分を越えた恋物語を描いた『エマ』、細部まで描きこまれた中央アジアの風物と美しい花嫁たちが登場する『乙嫁語り』。キラキラと輝く魔法と少女の成長を描いた『乱と灰色の世界』、アイスランドの大

自然のなかで消えた弟の行方を探る『北北西に曇と往け』。

美しい線画と華麗なコマ割りやセリフが織りなす綾はドラマティックでファンタスティックな物語へと読者を誘います。

本展では迫力の原画とともに、同人誌時代の作品やイラストレーション作品、机周りや創作メモ、取材の様子など執筆の現場も紹介。物語の世界はもちろん、一枚の原稿がうまれる、その道程までご紹介します。二人の漫画家と、漫画がもつ情熱をぜひ体感してください。

「コレクション展示」

寺山修司展

世田谷文学館コレクションにみる
2024年10月5日(土)～2025年3月30日(日)

表現活動の豊かな可能性を模索した寺山修司(1935～1983)は、様々な芸術分野を横断することでその才能を遺憾なく発揮しました。現在も、戯曲の再演や映画上映などを

*観覧料、無料観覧日などの詳細については8頁をご覧ください

通じて、若い世代を含めたファンは増え続けています。また、近年では教科書に取り上げられるなど、寺山作品は思春期の感受性豊かな若者に、時代を越えて語り続けており、その作品の普遍性が新たな読者を獲得して行くのです。寺山修司は、18歳で「短歌研究」新人賞を受賞。その後「俳句」や「短歌」などの定型詩から、自由詩へと創作活動の基盤を移し、歌謡曲の作詞や放送詩(ラジオ)へと活動ジャンルを広げました。そして、30歳を前後する1960年代後半には世田谷区下馬へ移り住み、演劇実験室「天井桟敷」を設立します。長編小説や戯曲、評論など新たな執筆活動を交えながら、演劇や映画といった芸術ジャンルへと移行していく、寺山にとって節目となる時期がこの世田谷時代でした。

寺山生誕90年にあたり、本展ではこれまで当館で収蔵してきた関連コレクションを一堂に展示します。自筆の書簡や「天井桟敷」に関する資料など約150点の資料で、寺山修司の人物像とその活動をご紹介します。

資料受贈報告

2023年9月1日～2024年7月18日

▼あいだあい様 安野モヨコ様 白田敏様 九里順子様 佐野亜利亜様 高瀬和子様 中村姫路様 笹木水谷有美様 ホンダアキ様 牧村康治様 町田育代様 森朝男様 安田勤様 米田憲三様
▼赤磐市教育委員会 尼崎芸術文化協会 池波正太郎記念文庫 石川近代文学館 石川県立美術館 伊豆文学フェスティバル実行委員会 イタリア文化会館 一茶記念館 茨城県常総市館のふさと文化づくり協議会 茨木市立川端康成文学館 井上ひさし研究会 井上靖記念館 井上靖記念文化財団 射水市大島絵本館 いわき市教育文化事業団 いわき市立草野心平記念文学館 ウェップ うらわ美術館 大田区立郷土博物館 尾上松之助遺品保存会 賀川豊彦記念松沢資

料館 学習院大学史料館 神奈川県近代文学館 金沢文化振興財団 紙の博物館 川崎市市民ミュージアム 神崎情報館 北九州市立文学館 北九州市立松本清張記念館 京都工芸繊維大学美術工芸資料館 京都・The SOUL 実行委員会 近代作家田代書研究会 クマヒラ・ホールディングス くまもと文学歴史館 久留米市美術館 黒澤明研究会 群馬県立土屋文明記念文学館 慶應義塾大学アート・センター 幻冬舎 江東区砂町文化センター石田波郷記念館 国学院大学博物館 国文学研究資料館 国立国会図書館国際子ども図書館 国立新美術館情報資料室 越谷市立図書館 富山県立文学館 高志の国文学館 小諸市教育委員会 さいたま市立大宮図書館 サントリー美術館 藤茂吉記念館 佐々木信綱記念館 山梨市立図書館 実践女子大学博物館 司馬遼太郎記念館 勝央美術文学館 書肆侃侃房 白百合女子大学言語学文化研究センター 新宿区立漱石山房記念館 水曜社 杉

並区立郷土博物館 成城大学民俗学研究所 世田谷区立郷土資料館 芹沢文学研究会 仙台文学館 田原市博物館 多摩美術大学アートとデザインの人類学研究 鶴岡市立藤沢周平記念館 都留市博物館ミュージアム都留 天為俳句会 東京都江戸東京博物館 東京都現代美術館 徳島県立文学書道館 豊島区郷土資料館 栃木市立文学館 富山県歌人連盟 富山県芸術文化協会 長泉町井上靖文学館 中原中也記念館 新美南吉記念館 日本歌人クラブ 日本近代文学館 日本現代詩歌文学館 日本児童ベンクラブ 本トリストイ協会 沼津市芹沢光治良記念館 沼津牧水会 野田宇太郎文学資料館 萩原朔太郎記念水と詩のまち前橋文学館 萩原朔太郎研究会 白山市立千代女の里俳句館 飯能市教育委員会 姫路文学館 福岡町立柳田國男・松岡家記念館 ふくやま文学館 文京区立森鷗外記念館 文京ふるさと歴史館 平凡社 北海道文学館 松山市立子規記念博

物館 岬の分教場保存会 三島市郷土資料館 三鷹市美術ギャラリー 三鷹市山本有三記念館 宮沢賢治学会イーハートセンター 武蔵野ふるさと歴史館 武蔵野美術大学美術館図書館 目黒区美術館 森イラス・コレクション事務所 野球殿堂博物館 山梨県立文学館 郵政博物館 横光利文学会 与謝野晶子倶楽部 吉村昭記念文学館 立教大学江戸川乱歩記念大衆文化研究センター 早稲田大学教育学研究近代文学ゼミ
▼「海」「海紅」「大岡信研究」「街道」「カプリチオ」「経堂雑記」「今日の花」「原型富山」「鴻」「心の花」「埼東文学」「佐佐木幸綱研究」「鹿野」「春耕」「正午」「抒情文芸」「詩霊」「駿河台文芸」「川柳研究」「双鷲」「蠶」「多摩のあゆみ」「短歌人」「探偵随想」「地中海」「飛火」「焰」「風」「フチ★モンド」「文章思潮」「文章歩道」「本のparking」「ランブル」「りん」の木」(暦日)(五十音順・団体名敬称略)

2023(令和5)年度
世田谷文学館事業報告

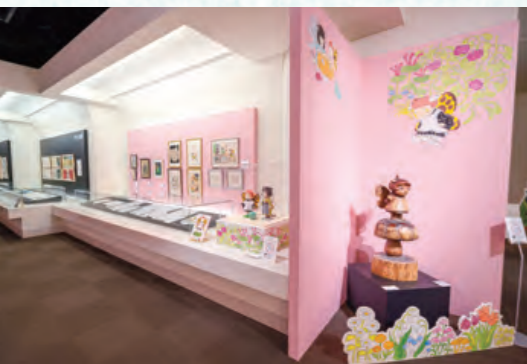
令和5年度企画展は、「石黒亜矢子展 ばけものぞろぞろ ばけねこぞろぞろ」と、「シーズン展示」どっせい!ねこまたずもう〜夏場所〜、そして「江口寿史展 ノット・コンプリーテッド」を実施した。いずれも現在活躍中の作家であり、熱心なファンを中心に、幅広い年齢層の来館者が集まる活気溢れる展示会となった。

石黒亜矢子展は、妖怪絵や化け猫図などの主題で知られる画家・石黒亜矢子(1973〜)にとって初めての大規模企画展となり、画家としての仕事のほか、『ばけねこぞろぞろ』『いもうとかいぎ』『ねこまたずもう』などの絵本作品の世界を、迫力あるダイナミックな自筆原画でお伝えした。また、本展では初期の絵画作品をはじめ、挿画・イラスト・最新作まで、これまで一体的に紹介されることの少なかった石黒亜矢子のクリエイティブの全貌に迫った。また夏休み期間中には、「シーズン展示」どっせい!ねこまたずもう〜夏場所〜を同時開催した。石黒亜矢子展と連動し、石黒作品の中でも人気の高い絵本『どっせい!ねこまたずもう』を題材に、参加者の動きと連動しながら、絵本の登場人物と相撲をとることが出来る仕組みのインタラクティブ・メディアアートとして展開した。大人も子供も年齢を問わず参加することが出来、また一人でも参加できるプログラムとしたため、予想を超える来場があった。

江口寿史展は、『すすめ!!パイレーツ』『ストップ!!ひばりくん!』等の強烈なギャグマンガで人気を博し、現在ではイラストレーターとしても活躍中の江口寿史(1956〜)を取り上げた。本展では特に、江口寿史の原点である漫画に焦点を絞り、その画業を振り返るとともに、作者が手掛けたCDジャケットの展示や執筆部屋の再現を行い、江口寿史セレクトションの音楽をBGMとして流すことで展示に没入できる空間を演出することができた。当時の読者である50、60代から、ポップカルチャーへの親しみが深い若年層まで

TOPICS

企画展 展示風景



石黒亜矢子展 ばけものぞろぞろ ばけねこぞろぞろ 2023/4/29～9/8

江口寿史展 ノット・コンプリーテッド 9/30～2024/2/4



幅広い年齢層が集った。リピーターが多かったのも本展の特徴である。関連イベントはすべて作家本人が出演し、ファンとの貴重な交流の場となった。連携事業として、せたがや文化財団音楽事業部と共催し、江口寿史と漫画家、とり・みき出演の音楽ライブも開催した。

コレクション展は前期展「没後50年 椎名麟三」と『あさって会』と、後期展「衣裳は語る―映画衣裳デザイナー・柳生悦子の仕事」を開催した。前期は、小説家・椎名麟三（1911～1973）の生涯と作品を特集し、椎名の模索し続けた「ほんとうの自由」を考察するとともに、同じく松原に住み親しく往来した梅崎春生ら戦後派作家たちの様相を紹介した。本展準備に伴う調査結果は、「世田谷文学館収蔵資料（調査と探求）01石川淳／椎名麟三「上巻」」に反映させた。後期は、東宝・砧撮影所初の専属衣裳デザイナーとして、日本映画黄金期に現代劇から時代劇まであらゆるジャンルで活躍した柳生悦子（1929～2020）の業績を、生前本人から寄贈された多くのデザイン画とともに紹介した。あわせて400点の衣裳デザイン画を閲覧できるデジタル展示プログラムも開発した。

当館の基幹事業として実績を積み重ねてきた「どこでも文学館」では、学校や地域と連携して、文学作品のパネルなどの出張展示を実施し、全国への貸し出しも行った。「0才からのジャズコンサート」は、0才から大人まで楽しめる本格ジャズコンサートで毎年好評を得ており、令和5年度も感染症対策に留意しながら人数制限を緩和して実施した。乳幼児もリズムを感じて体を動かし、二世帯、三世帯の子ども連れ家族で賑わった。講座「生業さがし 小説家という職業」は将来の仕事をも具体的に考え始める高校生を対象に実施し、第3弾は現役の小説家を招いて、小説家になるまでや出版業界の話、小説を書くにあたってのモチベーションやコツについてなど具体的な話を聞いた。区内大学の日本女子体育大学のダンス・プロデュース研究部との連携ワークショップ「ことばとからだ 『シン・モモタロウ』をダンスでおどろろ！」は、昔話の「桃太郎」をアレンジしてオリジナルダンスを創作し、元氣いっぱいダンスを完成させた。学校連携

ワークショップ「落語をたのしもう〜笑いを生み出してみよう」は、区立荻花小学校4年生が、講師の指導で古典芸能である落語について学び、グループワークや個人練習を通して落語の演技や所作を身につけて自分の落語を創作した。日常生活でも実践できる「人を傷つけない笑い」についても考えを深めた。ワークショップ「だれでも探検家」は探検家の高橋大輔氏を講師にリアルイベントで開催し、近隣の蘆花恒春園でワークシートに沿って探検を進めた。探検の基本を学んだあとは文学館に戻りサバイバルテクニックのひとつとして、「災害時にも使える身近なものの活用方法」を実践的に学んだ。

広報活動では、文学館事業を広く周知するため、ホームページコンテンツの制作、文学館ゆかりのゲストを招いたトーク番組「ほんとはラジオ」の放送、「文学館ニュース」の発行を行った。また、新たな展開として、利用者サービスの充実を目的とした「セタブンパス」を開始し、オリジナルコンテンツの配信を行うなど、利用者に文学館をより身近に感じてもらえるようなサービスの充実・強化に取り組んだ。オンライン配信は場所と時間の制約がないため、文学館に物理的に来られない方々にも利用いただけること、文学館の存在をひらくアピールできる点も期待が大きい。そのためには実際に訪れて感じていただける感動と同質のコンテンツを開発していくことが今後の課題である。

文学館活動の基盤となる収蔵コレクションの調査・研究事業では、資料の翻刻を中心とした資料集「世田谷文学館収蔵資料（調査と探求）01石川淳／椎名麟三「上巻」」を刊行した。館の収蔵資料は今後の文学研究においても、極めて重要な位置づけにある。次年度は「収蔵資料（調査と探求）02石川淳／椎名麟三「下巻」」を刊行する予定であり、継続して調査・研究を充実させていく。

令和7年に世田谷文学館は、いよいよ30周年を迎える。時代が目まぐるしく変化の中で、30年の歩みで培った強みを大事にしながらも、常に新しいチャレンジを恐れない文学館として、来るべき周年の年を迎えたい。

幅広い年齢層が集った。リピーターが多かったのも本展の特徴である。関連イベントはすべて作家本人が出演し、ファンとの貴重な交流の場となった。連携事業として、せたがや文化財団音楽事業部と共催し、江口寿史と漫画家、とり・みき出演の音楽ライブも開催した。

コレクション展は前期展「没後50年 椎名麟三」と『あさって会』と、後期展「衣裳は語る―映画衣裳デザイナー・柳生悦子の仕事」を開催した。前期は、小説家・椎名麟三（1911～1973）の生涯と作品を特集し、椎名の模索し続けた「ほんとうの自由」を考察するとともに、同じく松原に住み親しく往来した梅崎春生ら戦後派作家たちの様相を紹介した。本展準備に伴う調査結果は、「世田谷文学館収蔵資料（調査と探求）01石川淳／椎名麟三「上巻」」に反映させた。後期は、東宝・砧撮影所初の専属衣裳デザイナーとして、日本映画黄金期に現代劇から時代劇まであらゆるジャンルで活躍した柳生悦子（1929～2020）の業績を、生前本人から寄贈された多くのデザイン画とともに紹介した。あわせて400点の衣裳デザイン画を閲覧できるデジタル展示プログラムも開発した。

当館の基幹事業として実績を積み重ねてきた「どこでも文学館」では、学校や地域と連携して、文学作品のパネルなどの出張展示を実施し、全国への貸し出しも行った。「0才からのジャズコンサート」は、0才から大人まで楽しめる本格ジャズコンサートで毎年好評を得ており、令和5年度も感染症対策に留意しながら人数制限を緩和して実施した。乳幼児もリズムを感じて体を動かし、二世帯、三世帯の子ども連れ家族で賑わった。講座「生業さがし 小説家という職業」は将来の仕事をも具体的に考え始める高校生を対象に実施し、第3弾は現役の小説家を招いて、小説家になるまでや出版業界の話、小説を書くにあたってのモチベーションやコツについてなど具体的な話を聞いた。区内大学の日本女子体育大学のダンス・プロデュース研究部との連携ワークショップ「ことばとからだ 『シン・モモタロウ』をダンスでおどろろ！」は、昔話の「桃太郎」をアレンジしてオリジナルダンスを創作し、元氣いっぱいダンスを完成させた。学校連携

催事



ほんとわラジオ11月放送
ゲスト：江口寿史（漫画家・イラストレーター）



コンサート「0才からのジャズコンサート」
出演：クニ三上（ピアノ）、林正男（ベース）、横山和明（ドラムス）10/18（3公演）



石黒亜矢子展関連イベント「おお雨・ライブ「化け猫ロック」」
出演：おお雨（ボーカル・ギター：おおはた雄一、ボーカル：坂本美雨）6/17



コレクション展関連イベント
「ムットーニ コレクション 口上つき上演会」
出演：ムットーニ（武藤政彦）12/2・3（各日3回）



江口寿史展関連イベント「サイン会」
出演：江口寿史（漫画家・イラストレーター）11/28、1/8、2/3・4



出張展示「書家による―世田谷ゆかりの作家たち展―」
川場村ふじやまビレッジせせらぎの湯 6/30～11/16



ダンスワークショップ
「ことばとからだ『シン・モモタロウ』をダンスでおどろろ！」
講師：日本女子体育大学ダンス・プロデュース研究部
（顧問：高野美和子）12/10



学校連携ワークショップ「落語を楽しもう
～笑いを生み出してみよう～」(荻花小学校共催)
講師・出演：楽亭じゅげむ（落語教育家）12/9



シーズン展示「どっせい！ねこまたずもう～夏場所～」7/22～8/31

ワークショップ「誰でも探検家」
講師：高橋大輔（探検家）1/21

文学サロンイベント
「館長対談「辻原登の文学の魅力とは～小説と人生～」」
講師：辻原登（神奈川県立近代文学館長）、
亀山郁夫（世田谷文学館館長）9/23



コレクション展 展示風景

コレクション展前期 没後50年・椎名麟三と「あさって会」
2023/4/22～9/3 [展示室内の設備不具合に伴う点検整備のため8/6で閉幕]



コレクション展後期 衣裳は語る―映画衣裳デザイナー・柳生悦子の仕事
10/7～2024/3/31



2023(令和5)年度
事業一覧

1 展覧会				
展覧会名	会期	日数(日)	一般観覧料(円)	観覧者数(人)
●コレクション展				
前期 没後50年・椎名麟三と「あさって会」	2023/4/22～9/3 [展示室内の設備不具合に伴う点検整備のため8月6日で閉幕]	92	200	3,836
後期 衣裳は語る —映画衣裳デザイナー・柳生悦子の仕事	10/7～2024/3/31	148	200	8,369
●企画展				
石黒亜矢子展 ばけものぞろぞろ	2023/4/29～9/3	110	1,000	21,298
2023年「石黒亜矢子展」関連・シーズン展示 「どっせい! ねこまたずも〜夏場所〜」	2023/7/22～8/31	35	無料	7,064
江口寿史展 ノット・コンプリートッド	9/30～2024/2/4	105	1,000	19,018
		合計		59,585

2-1 普及事業:どこでも文学館(出張展示)

●展覧会名(無料)			
会場	開催日	観覧者数(人)	
●「シートン動物記」展			
川場村ふじやまビレッジせせらぎの湯	2023/4/1～6/29	4,873	
太子堂小学校	9/14～10/4	445	
祖師谷小学校	10/4～10/31	653	
山崎小学校	11/2～11/30	357	
●「井上ひさし ふかいことをゆかいに」展			
川場村なかのビレッジB棟	4/1～6/29	2,450	
駒留中学校	9/22～10/31	323	
●「宮西達也と子どもたち」展			
コミュニティカフェななつのこ	6/8～7/11	2,044	
奥沢図書館	8/2～8/27	5,134	
弦巻小学校	9/1～9/26	790	
世田谷小学校	10/11～10/25	506	
●「SF入門Vol.2 星新一」展			
川場村なかのビレッジB棟	6/30～11/16	4,291	
●「書家による 世田谷ゆかりの作家たち」展			
川場村ふじやまビレッジせせらぎの湯	6/30～11/16	8,019	
●「SF入門Vol.1 星新一」展			
中央図書館	7/21～8/23	49,174	
三宿中学校	9/1～9/30	380	
玉川中学校	11/2～11/30	362	
●「山へ! to the mountains」展			
江東区立江東図書館	8/19～9/14	33,662	
●「水上勉のハローワーク」展			
弦巻中学校	9/1～9/30	439	
千歳小学校	11/2～12/8	877	
●「宮沢賢治 幻想紀行」展			
代田小学校	9/1～10/11	307	
山野小学校	9/22～10/20	1,108	
池上小学校	10/20～11/21	323	
芦花小学校	2024/1/16～2/1	1,052	
中央図書館	2024/2/16～3/28	49,513	
●「水丸さんがたんごどん」展			
粕谷図書館	9/14～11/29	36,184	
給田幼稚園	10/4～10/31	42	
上北沢保育園	11/2～11/30	119	
奥沢図書館	12/3～2024/2/7	8,487	
●「詩人萩原朔太郎」展			
中央図書館	9/26～10/24	33,752	
●「OSAMU'S MOTHER GOOSE」			
船橋希望中学校	9/26～10/25	696	
●「セタブン人生相談—あなたのための人生処方箋」展			
鳥山中学校	10/2～10/24	533	
奥沢図書館	2024/2/9～3/17	6,724	
●「ヨシタケシンスケさんの絵本～きみだったらどうする?」展			
世田谷文学館	2024/3/1～3/31	380	
	合計	253,999	

6 年間利用者数

	343,871
--	---------

2023(令和5)年度 協賛

株式会社ウテナ、鳥山駅前通り商店街振興組合、JA東京中央農業協同組合、昭和信用金庫、世田谷信用金庫、東邦ホールディングス株式会社、ベネッセスタイルケア芦花翠風邸、芦花公園商店街振興組合 (50音順)

2-2 普及事業:どこでも文学館(ワークショップ)ほか

内容	開催日	参加者数(人)
石黒亜矢子展関連イベント 都市ボーイズ・ライブ「怪奇オカルトトークショー」 出演:都市ボーイズ(岸本誠・はやせやすひる)	2023/5/20	110
石黒亜矢子展関連イベント おお雨・ライブ「化け猫ロック」 出演:おお雨(ボーカル・ギター:おおはた雄一 ボーカル:坂本美雨)	6/17	145
コレクション展関連イベント ムットーニ コレクション 口上つき上演会(各日3回) 出演:ムットーニ(武藤政彦)	7/8, 7/15	90
コレクション展関連イベント 「煙突の見える場所」上映会 協力:国際放映株式会社	8/6	8
文学サロンイベント 館長対談「辻原登の文学の魅力とは～小説と人生～」 講師:辻原登(神奈川県立近代文学館長)、亀山郁夫(世田谷文学館館長)	9/23	49
江口寿史展関連イベント 「ライブロイヤリング」 出演:江口寿史(漫画家・イラストレーター)	9/30, 10/1, 10/14	533
コンサート「0才からのジャズコンサート」(3公演) 出演:クニ三上(ピアノ)、林正男(ベース)、横山和明(ドラムス)	10/18	339
江口寿史展関連イベント 「ライブスケッチ」 出演:江口寿史(漫画家・イラストレーター)	10/28, 11/3	350
高校生向けワークショップ 「生業さがし 小説家という職業」 講師:柚木麻子(小説家)	11/18	3
セタブンパス会員特典イベント 「江口寿史&浦沢直樹トークショー」 (エフエム世田谷「ほんとはラジオ」公開ラジオ収録) 出演:江口寿史(漫画家・イラストレーター)、浦沢直樹(漫画家)	11/19	84
江口寿史展関連イベント 「サイン会」 出演:江口寿史(漫画家・イラストレーター)	11/28, 2024/1/8, 2/3, 2/4	587
コレクション展関連イベント ムットーニ コレクション 口上つき上演会(各日3回) 出演:ムットーニ(武藤政彦)	12/2, 12/3	102
学校連携ワークショップ「落語を楽しもう～笑いを生み出してみよう～」(芦花小学校共催) 講師・出演:楽亭じゅげむ(落語教育家)	12/9	171
ダンスワークショップ 「ことばとからだ『シン・モモタロウ』をダンスでおどろう!」 講師:日本女子体育大学ダンス・プロデュース研究部(顧問:高野美和子)	12/10	11
ワークショップ「誰でも探検家」 講師:高橋大輔(探検家)	1/21	12
その他(職場体験、学芸員実習、活動支援事業での講師派遣など)	通年	1,190
	合計	3,784

3 ライブラリー・講義室等

施設	利用者数(人)
ライブラリー	17,997
講義室	1,389
くつろぎスペース	7,117

4 文学資料収集・保管(点数)

令和5年度収蔵点数	4,958
令和6年3/31現在の収蔵品点数	106,737
資料貸付(点数)	94
特別閲覧件数(点数)	466
特別閲覧件数(撮影点数)	47

5 刊行物

タイトル	判型/頁数	頒価(円・税込)
●世田谷文学館ニュース		
第82号 巻頭エッセイ「眩しい光、自由の影 椎名麟三のアナーキー」 亀山郁夫(世田谷文学館館長)/2022年度世田谷文学館事業報告	A4/8	無料
第83号 館長の作家対談 ゲスト 辻原登(作家、神奈川近代文学館館長)	A4/8	無料
●展覧会関連書籍		
「石黒亜矢子作品集其の式」(玄光社より「石黒亜矢子展 ばけものぞろぞろ ばけねこぞろぞろ」開催にあわせて刊行)	A5/160	3,300円
「江口寿史屏絵大全集」(小学館より「江口寿史展 ノット・コンプリートッド」公式画集として刊行)	B5/354	5,500円
●その他		
資料集「世田谷文学館収蔵資料(調査と探究)01石川淳/椎名麟三[上巻]」	B5/118	無料
移動文学館 出張展示キット 貸出案内パンフレット	A5/48	無料
どこでも文学館報告書2023	B2(4ツ折)/1	無料

展覧会ポスター



没後50年・椎名麟三と「あさって会」



江口寿史展 ノット・コンプリートッド



石黒亜矢子展 ばけものぞろぞろ ばけねこぞろぞろ

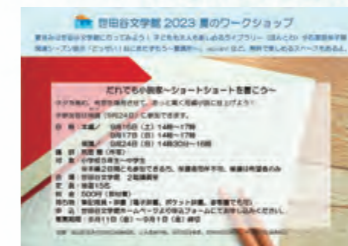
イベントフライヤー



セタブンパス募集チラシ



0才からのジャズコンサート



夏のワークショップ



高校生向けワークショップ
生業さがし「小説家という職業」



冬のワークショップ



衣裳は語る—映画衣裳デザイナー・柳生悦子の仕事

刊行物・展覧会関連書籍



世田谷文学館出張展示キット
「移動文学館」貸出
案内パンフレット



どこでも文学館報告書2023



収蔵資料「調査と探究」
01石川淳/椎名麟三[上巻]



江口寿史屏絵大全集
(小学館より「江口寿史展
ノット・コンプリートッド」公式画集
として刊行)



石黒亜矢子作品集其の式
(玄光社より「石黒亜矢子展
ばけものぞろぞろ ばけねこぞろぞろ」
開催にあわせて刊行)

企画展

小説と映画の世紀展 追悼・菅野昭正名誉館長

2024年9月21日(土)～10月20日(日)

- * トークイベント開催時は展示会場にお入りいただけない場合があります
- * イベント情報は、文学館ホームページ(www.setabun.net)をご覧ください

世田谷文学館
1階文学サロン

【観覧料】
入場料 無料



漫画家・森薫と入江亜季展 — ペン先が描く緻密なる世界 — Manga Artist KAORU MORI and AKI IRIE EXHIBITION — The World of Intricate Paintings Created with Pen —

2024年11月2日(土)～2025年2月24日(月・祝)

世田谷文学館 2階展示室

【観覧料】
一般 1,000(800)円 / 65歳以上・大学・高校生 600(480)円 / 小・中学生 300(240)円 / 障害者手帳をお持ちの方 500(400)円(但大学生以下は無料)

- * ()内は団体割引と「せたがやアートカード」割引料金



森薫『乙嫁語り』&
入江亜季『乱と灰色の世界』合作
© Kaoru Mori
© Aki Irie
© KADOKAWA CORPORATION

観覧券チケット

オンラインチケット及び当日券を販売いたします。

- * オンラインチケットの詳細は、世田谷文学館ホームページ(https://www.setabun.or.jp/)をご覧ください。
- * 電話でのご予約は受け付けておりません。

利用案内

開館時間: 10時～18時(観覧会入場は17時30分まで)

休館日: 毎週月曜日(月曜が祝日の場合は開館し翌日休館)

年末年始(12月29日～1月3日)

館内整備期間(3月10日～18日)

割引料金: 企画展・コレクション展ともに

団体(20名以上)は2割引。

- * 団体利用は事前にお問合せください。障害者手帳をお持ちの方は一般料金の半額。

交通案内:

京王線「芦花公園」駅南口より徒歩約5分
京王線「千歳烏山」駅南口より徒歩約13分
小田急線「千歳船橋」駅より京王バス(千歳烏山駅行)「芦花恒春園」下車徒歩約5分



後期コレクション展

寺山修司展

— 世田谷文学館コレクションにみる

2024年10月5日(土)～2025年3月30日(日)

* 会期中に年末年始・整備休館あり

世田谷文学館 1階展示室

【観覧料】

一般 200(160)円 /
大学・高校生 150(120)円 /
65歳以上・小・中学生
100(80)円 /

障害者手帳をお持ちの方
100(80)円(但、大学生以下は無料)

* ()内は団体割引と「せたがやアートカード」割引料金

* 世田谷区内在住・在学の小中学生は、土、日、祝、休日コレクション展は無料になります

同時開催
ムットーニコレクション



『われに五月を』出版の頃(1957年)
© テラヤマ・ワールド

Season Exhibition

The century of novels and films

Saturday, September 21, 2024 to Sunday October 20, 2024
Admission free

Special Exhibition

Manga Artist KAORU MORI and AKI IRIE EXHIBITION

— The World of Intricate Paintings Created with Pen —
Saturday, November 2, 2024 to Monday, February 24, 2025
Admission Fees

General admission: ¥1,000 (800); Over 65/College or High School Student: ¥600 (480); Junior High and Elementary School Student: ¥300 (240); Disability certificate holders: ¥500 (400) yen (Disability certificate holders of college age and below are admitted free of charge)

* Amounts in parentheses group discounts and reduced rates for holders of the Setagaya Arts Card

Exhibition Tickets

Online tickets and same-day tickets are available.

- * For details regarding online tickets, please see the SETAGAYA LITERARY MUSEUM website (https://www.setabun.or.jp/).
- * We cannot accept phone inquiries.

Setagaya Literary Museum Second Half Collection Exhibition Shuji Terayama Exhibition

Saturday, October 5, 2024 to Sunday, March 30, 2025

Concurrent Exhibition: Muttoni Collection

Admission Fees

General admission: ¥200 (160) / College or High School Student: ¥150 (120); Over 65/Junior High and Elementary School Student: ¥100 (80); Disability certificate holders: ¥100 (80) yen (Disability certificate holders of college age and below are admitted free of charge)

* Amounts in parentheses group discounts and reduced rates for holders of the Setagaya Arts Card

* Residents of Setagaya City and elementary/junior high school students attending school in Setagaya City can enter the collection exhibition free of charge on weekends and holidays

Visitor Information

Opening Hours: 10:00 am to 6:00 pm (last admission 5:30 pm)

Closures: Every Monday (Closed Tuesday when a national holiday falls on Monday)

New Year holidays (Dec.29–Jan.3)

Facility Maintenance Period (Mar.10–18)

Group Discount: Groups of 20+ visitors will receive a 20% discount on admission fee both collection and special exhibitions.

Disability certificate holders will be admitted at 50% the general rate.

Elementary and junior high school students, who studies or resides in Setagaya city, are admitted free on weekends, national holidays.

Access:

about 5-minute walk from Roka-koen Station's South Exit (Keio Line)
about 13-minute walk from Chitose-karasuyama Station's South Exit (Keio Line)
about 5-minute walk from Roka Koshuen (take Keio Bus from Chitose-Funabashi Station [Odakyu Line] towards Chitose-karasuyama Station [Keio Line])